

古谷 眞司 議員 … 1 件の一般質問

新施設における緊急時の
ライフライン喪失のリスク



町長：民間機関と連携し緊急時の対応をする

古谷

本町の大型施設として、今、学校給食センターを建設中である。また、統合保育所の実設計等も策定中というところで、これらの施設の緊急時、事故、故障等も含めた災害等による供給ライフラインの喪失が発生した時のバックアップ機能について。

①施設は、災害時に緊急の炊き出しに対応した施設としての活用をするか。
②施設のライフライン供給が喪失した場合のバックアップ機能はあるのか。

町長

①震度7クラスの地震が起きたと想定すると、ライフラインは途絶することが予想されるが、電力などが復旧し、学校給食センター及び統合保育所が使用可能な状態になった場合に、炊き出し施設として活用する。

②新学校給食センターは、阪神淡路大震災におけるライフラインの復旧を考慮し、電気調理器具にす。災害時のライフライン途絶の際の電源車や発電

機の利用は、早期に電気が復旧する見込みから導入しない。

災害が長期化した場合は、町内会の協力により避難所で炊き出しを行う。今後は、町の災害時の備蓄計画を策定し、計画的に長期保存食を備蓄する。

教育長

新学校給食センターは、最大1600食の供給が可能な施設であり、調理器具は電化設備で、給湯についてはA重油の使用となる。水道水は、受水槽に

22・5トンの貯水を行い使用するが、断水が起きると受水槽にある分での対応となり、水道の復旧や給水車の利用が可能になった段階で学校給食センターの運用が可能になると考える。

古谷

①統合保育所についても活用するか。
②1つのエネルギーに依存していくのは非常にリスクが高い。現在、ほとんどのエネルギーは、電気エネルギーがなければ稼働しない。他のエネルギー



建設予定の統合保育所

いる。下水道関係、トイレについてもどう考えているか。

町長

①統合保育所についても活用する。
②統合保育所は、さまざまな分散したエネルギーがあることよって活用ができるものと考えており、電気がガスかについては検討していく。

下水道は、一部使えないエリアが出るかもしれないが、一応バックアップ機能があり、ある程度処理はできる。全く使えない場合は簡易トイレを設置し、対応する。

ライフラインの復旧については全力を挙げて取り組み、一日も早い復旧をしていく体制づくりは必要があり、今後より検証をしながら計画する。

古谷

インシャルコストをかけず、かつ効果的、そして迅速である方法として、町にある民間の施設や資源等を十分に活用するのもバックアップ機能の一つと考える。

町長

発電機については、1社と協定している。また、飲料については、1社の自販機が災害時に使えるようになっていく。それとコンビニエンスストアとは、北海道全体で、飲食関係について災害時に、各自治体が見えることになっている。

教育長

また、ヒラフスキー場の宿泊施設関係とも、一時避難場所としての活用も考えられ、さまざまな観点で協定を結びながら、しっかりと対策をする。

給食センターの施設整備は、さまざまな要因により対応できないような状況はなっていないが、災害時最短で機能を復帰するためには、どんな手法があるのかというあたり町長部局とも連携をし、各機関、業者とも協力しながら考える。